

横浜市港湾部のコアジサシ繁殖地の保全 要望書

横浜市本牧ふ頭B C突堤における工事休止について（要望）

平成 16 年 6 月 17 日 横浜市長宛て

この要望を受けて、6 月 18 日、コアジサシの繁殖終了までの期間、工事が休止されることとなりました。

→横浜市長さんから回答が届きました（7 月 26 日）

→横浜市長さんに感謝状を贈呈しました（8 月 27 日）

日野鳥発第 23 号
平成 16 年 6 月 17 日

横浜市長
中田 宏 様

〒151-0061 渋谷区初台 1-47-1
小田急西新宿ビル 1 階
財団法人 日本野鳥の会
会 長 柳生 博

横浜市本牧ふ頭 B C 突堤における工事休止について（要望）

日頃から自然保護行政の推進についてご尽力のこと、感謝申し上げます。

さて、このほど、小会神奈川支部からの連絡により、横浜市中区本牧ふ頭 B C 突堤において、絶滅のおそれのある稀少種であるコアジサシが約 6 0 0 羽規模で繁殖していることが判明しました。当地は 6 月中旬から貴市港湾局により造成工事が開始されると聞き及んでおりますが、稀少種の保全のため、至急、この造成工事の着工を延期してくださるよう要望いたします。

コアジサシは、環境省のレッドデータブック（『改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物』）で絶滅危惧 II 類に掲載されている稀少種です。もともと砂浜や河川敷といった裸地に集団で巣を作る鳥ですが、全国的に繁殖適地が激減しているため、造成途中の一時的な裸地にも営巣してしまうことが増えています。神奈川県においては、目下のところこの本牧ふ頭が最大の繁殖地となっています。本牧ふ頭ではコアジサシは現在、産卵に入っており、雛も確認されていますので、このまま予定通り工事が始まれば、繁殖地は壊滅状態になることは目に見えています。

繁殖はあと 2 ヶ月程度で終了しますので、その間だけ、工事を休止していただければ、コアジサシの命は助かります。従来から貴市港湾局には、臨海部の工事現場におけるコアジサシの保護について多大なるご理解をいただきましたが、この度も是非、現状工事を休止して、絶滅に瀕するコアジサシの保護してくださるよう、ご決断のほどをお願いいたします。

横浜市長さんから回答が届きました（7月26日）

市広聴第900967号

平成16年7月26日

財団法人 日本野鳥の会
会長 柳 生 博 様

横浜市長 中 田 宏



本牧ふ頭BC突堤における工事休止について（回答）

さきに要望（平成16年6月17日）のありましたことについて、次のとおりお答えします。

ご指摘の「本牧ふ頭BC突堤における工事休止」については、本市が進めている自然保護行政の観点から、コアジサシの繁殖終了まで営巣地での工事を中断することとしました。

なお、営巣に関係のない場所での工事については実施していきますが、営巣場所の保護については、工事及び港湾関係者に周知していきます。

今後は、現地の詳細な調査を行うとともに繁殖の経過を見ながら、雛が無事に巣立つまでコアジサシの繁殖を保護することとしますので、ご協力のほどよろしくお願いします。

本市としましても、無事雛が成長して巣立っていくことを心から望んでいます。

この旨ご了承いただき、貴会の皆様によりしくお伝えください。

横浜市長のコアジサシの繁殖地保護に対し感謝状を贈呈

本年6月、横浜市本牧ふ頭の港湾工事現場（事業者：横浜市港湾局）において、絶滅のおそれのある鳥類の一種、コアジサシの集団営巣地が見つかったため、横浜市長は急遽、工事の一時中止を決断しました。これにより、約500巣のコアジサシの営巣が確保され、神奈川県最大の繁殖地が保護されました。

この英断を下され、コアジサシ保護を行った中田宏市長に対し、2004年8月27日、(財)日本野鳥の会会長柳生博は横浜市庁舎において、感謝状を贈呈しました。



● コアジサシ営巣地

今回保護されたのは、横浜市本牧ふ頭B突堤とC突堤の間の港湾工事現場内のもの。6月26日（土）に日本野鳥の会神奈川支部が行った調査によると、成鳥約1,000羽、巣490個、雛483羽が観察された（推計値を含む）。この数は、神奈川県内では今シーズン最大である。

神奈川県では、川崎市港湾部・横浜市港湾部・相模川中流・酒匂川中流に営巣地がある。神奈川県のレッドデータブックでは「絶滅危惧種」に、環境省レッドデータブックでは「絶滅危惧Ⅱ類」にランクされている。

● 横浜市のコアジサシ保護についての感謝状贈呈の経緯

1. 1998年南本牧ふ頭（今回の場所とは異なる）において、日本野鳥の会神奈川支部が約600羽のコアジサシ営巣地を発見。横浜市港湾局に保護対策を要請。
適当な営巣場所へ誘導し、工事予定地での営巣を事前に防ぐための溝を施工していた

だいた。これにより２０００年までの３年間、繁殖を確保した。

- ２． ２００２年度、日本野鳥の会神奈川支部が本牧ふ頭でコアジサシ（今回の場所）の営巣地を新たに発見した。工事を行わない地区での繁殖であるが、工事車両等の流入について配慮をお願いした。
- ３． ２００３年度も本牧ふ頭内で繁殖があった模様（神奈川支部は未確認）。
- ４． ２００４年６月１１日、（財）日本野鳥の会に本牧ふ頭のコアジサシの保護を訴える匿名のメールが入る。６月１５日に本牧ふ頭を日本野鳥の会神奈川支部と港湾局で視察した所、工事予定地区で、推定５００羽前後のコアジサシが繁殖している事を確認。工事延期を含めて検討して頂く事になった。
- ５． ６月１７日、（財）日本野鳥の会より工事休止の要望書を提出。
- ６． ６月１８日に横浜市港湾局より日本野鳥の会神奈川支部へ、工事休止の連絡が入る。
- ７． ６月２６日の日本野鳥の会神奈川支部の調査結果
確認総数： 卵：８０７， ヒナ：５０６， 巣：４１８， 古巣：２２４
推計総数： 卵：９１３， ヒナ：５７２， 巣：４９０， 古巣：２７３
死んだ卵（放棄など）： ６７， ヒナ死体：３３
（これらは、上記総数には含まれない）
調査中のコアジサシ成鳥は８００羽以上、１０００羽は居たと推定される。
- ８． ７月２７日 横浜市より市長名で、要望どおり工事を中断した旨の回答文書をいただく。